

第170回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 〔丸数字は予想配点、合計 54 点〕

番	正誤	理 由
1.	③ ○	
2.	③ ×	収益性の低下に基づく簿価切下額が、臨時の事象に起因し、かつ、多額であるときには、特別損失に計上する。④
3.	③ ×	売上戻り、売上値引、及び売上割戻しは、売上高から控除するが、売上割引は、財務費用であるから営業外項目として取り扱う。④
4.	③ ×	破産更生債権等の貸倒見積高は、原則として、貸倒引当金として処理する。ただし、債権金額又は取得価額から直接減額することもできる。④
5.	③ ○	
6.	③ ○	
7.	③ ×	特定の研究開発目的にのみ使用され、他の目的に使用できない機械装置や特許権等を取得した場合の原価は、取得時の研究開発費とする。④
8.	③ ×	ファイナンス・リース取引の借手は、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理により、リース物件とこれに係る債務をリース資産及びリース債務として計上する。④
9.	③ ○	
10.	③ ×	正ののれんは、資産に計上し、20 年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法の他の合理的な方法により規則的に償却する。④

問題 2 〔丸数字は予想配点、合計 34 点〕

問 1

	用 語		用 語
(a)	② 費用又は損失	(d)	② 合理的に
(b)	② 当期以前の事象	(e)	② 当期の負担
(c)	② 発生の可能性	(f)	② 偶発事象

問 2

修繕引当金は債務性を有しないという点で他の負債性引当金と異なる。㊦

問 3

評価勘定の例	その評価勘定が果たす役割
社債発行差金 ㊥	この金額は、社債の発行価額と、主たる勘定である社債勘定が示している額面額との差額のうちの未償却額、つまり次期以降の要費用処理額を表す。㊦
減価償却累計額 ㊥	この金額は、固定資産の取得原価のうち、減価償却の手続きによって各期に配分された金額の合計額を表す。㊦

問 4

第 1 法	その債権が属する科目ごとに控除する形式で表示する方法。㊦
第 2 法	二以上の科目について、貸倒引当金を一括して記載する方法。㊦
第 3 法	債権について、貸倒引当金を控除した残額のみを記載し、当該貸倒引当金を注記する方法。㊦

問題 3 〔丸数字は予想配点、合計 12 点〕

問 1

	用 語
(x)	㊥ 総収益当期純利益率
(y)	㊥ 総資産回転率

問 2

流動比率の問題点	流動比率の分子である流動資産には、負債の返済に充てることができない期間損益計算の観点から計上される前払費用や継続的な企業活動の遂行上必要とされる棚卸資産の在庫が含まれているため。㊦
----------	--

問 3

財務比率の例	その計算式
総資産負債比率 (負債比率) ㊥	$\frac{\text{負債}}{\text{総資産}} \times 100 (\%) \quad \text{㊦}$